



参政党新宿まなびとまもりの会では、新宿区政に関する情報や区議会報告の他、区民のみなさまのお役に立てる情報の発信をしていきます。

慰安婦像設置の本当の目的とは？

こんにちは。新宿区議会議員の青木ひとみです。

残念なことです、世界中に慰安婦像が設置されているのはご存じのことと思います。韓国をはじめ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ドイツなど各地に設置されていて、つい最近もイタリアに新たに設置されてしまいました。

その中でもドイツはベルリンのミッテ区というところに設置されているのですが、このミッテ区と新宿区が友好都市提携しているのはご存じでしょうか。ミッテ区（合併前の旧ティアガルテン区）と新宿区は1994年に友好提携を調印し、今年で30周年を迎えます。ほぼ毎年青少年一行が交互に訪問し、交流を続けてきました。



青少年が海外との交流を行うことには多くの意義と利点があります。異なる文化や価値観に触れることで広い視野を持ち、柔軟な思考を養うことができます。また、異文化環境での経験を通じて、自立心や問題解決能力が向上し、自国を客観的に見ることで、他国との違いや良い点、悪い点にも気付く機会を得られます。交流事業を長年にわたり続けてきたのは大変意義のあることだと思っています。

そんな中、ミッテ区に慰安婦像が設置されたのが令和2年（2020年）ですから、20年以上も交流を続けてきた中で、そのような事態になってしまったのは非常に残念なことです。交流を続ける双方の青少年に与える影響が懸念されます。

しかし、私たちが本当に注意しなければいけないことは別の点にあります。

一部の団体による慰安婦像設置は地域コミュニティにも影響を与えます。像を支持するグループと反対するグループの間で摩擦が生じることがあり、時には法的な争いに発展することもあります。



このように、コミュニティを分断し、団結の力を弱めるというのは、支配者が統治を効率的に行うための手法のひとつです。人々を分断し、互いに対立させることで反抗や統一を防ぎ、支配者が自分たちに有利な状態を作り出します。

慰安婦像の設置にはそのような隠された目的もあるのです。私たちはそのような思惑に踊らされず、冷静に状況を見極める必要があります。

令和6年第2回定例会で一般質問をおこないました

令和6年第2回定例会が6月21日に終了しました。

参政党新宿まなびとまもりの会では、ベルリン市ミッテ区との青少年交流事業についてと子宮頸がんワクチンについての2テーマで一般質問をしました。

質問1

ベルリン市ミッテ区との
青少年交流事業について

友好都市であるドイツ・ベルリン市ミッテ区に慰安婦像および日本をおとしめる内容の碑文が設置されていることが、長年続けてきた青少年交流事業および区が推進する多文化共生の取り組みにどのような影響を及ぼすかを質問しました。

1

慰安婦像と碑文の存在がミッテ区と新宿区の友好関係に与える影響は

2

特定の国同士の歴史問題が多文化共生の理念に反する場合、区としてはどのように対処すべきか

質問2

ヒトパピローマウイルス
(HPV) ワクチンの接
種について

過去に副反応の危険があるということで接種勧奨を差し控えていた子宮頸がんワクチンが令和4年4月からまた接種勧奨されることになりました。以前のワクチンと何も変わっていないのに再び接種勧奨されることになった経緯と安全性について質問しました。

1

いったん控えていたHPVワクチンの接種勧奨が再開した背景や根拠について

2

男性に対するHPVワクチン接種の必要性について現在示されている見解や理由

区長答弁

青少年交流事業は未来を担う青少年の育成と、両区の交流・発展に寄与するものであることから、外交上の課題である慰安婦像と碑文の内容は、本事業に影響はないと考える。

特定の国同士の歴史問題があったとしても、互いの文化的違いを認め合い、1人ひとりが地域社会の一員として活躍できる多文化共生のまちづくりを進めていくことが重要であると考えている。

最新情報は
公式ウェブサイトで



青木仁美
X(旧Twitter)



区長答弁

ワクチン接種と因果関係を否定できない副反応が報告されたため定期接種の積極的な勧奨を控えていた。その後国の審議会において安全性について確認され、接種による有効性が副反応のリスクを上回るため積極的勧奨を再開した。

男性がHPVワクチンを接種することにより男性自身のHPV感染リスクを軽減し、肛門がんや尖圭コンジローマ等を予防する効果が認められている。男女へのワクチン接種が進むことで集団免疫が形成され、地域社会全体を感染症から守ることにつながる。

HPVワクチンについては、現段階ではがんそのものを予防する効果は証明されていません。厚生労働省のウェブサイトにもそのように記載されています。効果についてはあくまで推計値であり、「予防が期待される」という表現が使われています。副反応が報告されているワクチンを、わずかな効果の「期待」のために、健康被害のリスクを取ってまで接種することが本当に必要でしょうか。

青木仁美（あおきひとみ）

新宿区議会議員 令和5年4月初当選
参政党新宿まなびとまもりの会代表
関西学院大学文学部哲学科卒業
新宿区山吹町在住



発行元：参政党新宿まなびとまもりの会

162-0801 東京都新宿区山吹町366-1-1304

電話：050-3690-1501

メール：info@aokihitomi.com